

JENESYS2015（招へいプログラム）

（対象国：ラオス，テーマ：（社会）環境・防災体験・交流）の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、ラオスより環境・防災に関心を有する大学生・大学院生 20 名が来日し、日本の政治、社会、歴史、環境、防災及び外交政策に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、1月26日から2月2日までの7泊8日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加国・人数

ラオス 20名

3. 訪問地

東京都、千葉県

4. 日程

- 1月26日（火） 成田国際空港より入国、来日時オリエンテーション
- 1月27日（水） 【環境技術視察】芝浦水再生センター
【日本理解講義・基調講演】
- 1月28日（木） 【環境技術視察】品川清掃工場
東京都から千葉県へ移動
【学校交流】亀田医療大学
【防災視察】消防団の夜警活動
- 1月29日（金） 【地方自治体表敬】鴨川市
【自然・地場産業視察】みんなみの里、いちご農園視察
【ホームステイ対面式】
- 1月30日（土） 【自然・環境視察】大山千枚田
【ホームステイ】
- 1月31日（日） 【ホームステイ歓送会】
【防災体験】防災教室
【ワークショップ】報告会準備
- 2月1日（月） 地方プログラム終了後、東京へ移動
報告会（訪日成果・帰国後活動計画発表）
- 2月2日（火） 成田国際空港より出国

5. JENESYS2015 プログラム記録写真



1/28【環境技術視察】品川清掃工場（東京都）



1/28【学校交流】亀田医療大学（鴨川市）



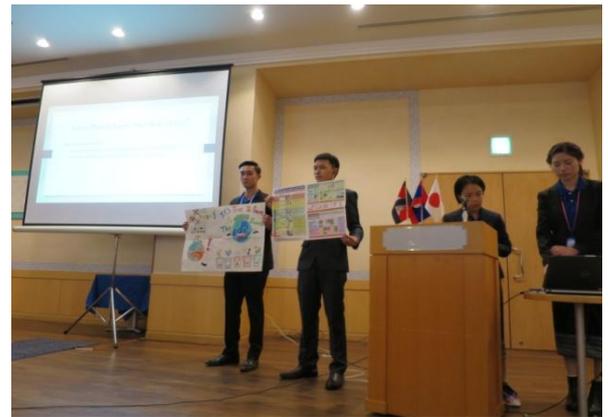
1/29 ホームステイ（鴨川市）



1/29【自然・地場産業視察】みんなみの里（鴨川市）



1/31【防災体験】防災教室（鴨川市）



2/1 報告会（東京都）

6. 参加者の感想

◆ ラオス 学生

今回の日本訪問を通して、最も印象に残ったことは、ゴミ処理の施設見学でした(品川清掃工場)。そこで、ゴミを分別し、再利用していること、再利用できないゴミのみ最先端の処理工程を通して焼却していることを学びました。そして大気汚染につながる排気ガスは、可能な限り除去していました。また、この工場では、ゴミの焼却からでる熱エネルギーを利用し、発電を行い、電力会社に供給したり、地域にある大企業に送っています。私は、ラオスに帰ったら、このような経験や知識、ゴミの分別の重要性を、家族や学校、親戚に伝えたいと思いました。再利用できるごみには、ガラスやペットボトル、缶、牛乳パックなどです。また、この工場は、環境に対して重要な役割を担っているだけでなく、5億円にのぼる収入を得ていました。

また、農家での2泊のホームステイが印象に残っています。ここでは、日本人の生活様式を知ると共に日本語も学びました。言葉が理解できずコミュニケーションが難しいこともありましたが、日本のお父さんお母さんは、とても親切でした。私たちに、本当の子どものように接してくださいました。短い間でしたが、私にとっては、決して忘れることができない思い出です。

◆ ラオス 学生

日本では、ゴミも重要な資源の一つです。数日間、千葉県鴨川市の直売所「みんなみの里」での見学や講義などを通して、このことが鮮明に記憶に残っています。ここでは、私にとって馴染みのない様々な考え方を教えてくれました。例えば、農家が自分で価格を決定し、委託販売をすることができる店舗、資源を最大限に活用する努力などです。ゴミとなるものを、他のものに形を変えることで、再利用すること、その機会を見つけること、日本は、多くの天然資源を使っていますが、自然災害に見舞われることも多いので、日本人は物を再利用していることを学びました。

また、ゴミや汚水は、有益な再利用がなされています。焼却灰は埋め立てなどに(ラオスでは海に埋め立てることはできませんが)、再生水は樹木への散水、車両の洗浄、汚泥はレンガを作ったり他のものに利用したりしています。これらの体験は、私の耳と目を開いてくれました。自分を見直す新しい考え方を学びました。私たちが重要と考えていない物、私たちが必要としない物でも、良い考え方や斬新なアイデアがあれば、それらの物に価値を与え、有益なものに生まれ変わらせることができることを学びました。

◆ ラオス 学生

今回の日本訪問を通して最も印象に残ったことは、環境に関する日本の最先端技術です。特に品川清掃工場では、環境に影響を及ぼさないゴミの焼却を行っていました。排気ガスに含まれる環境に影響を及ぼす物質や化学物質は、大気中に出す前に濾過します。これは、先端技術であり、今日の要請に応えるものです。また、もう一つ印象に残った事は、日本人のきめ細かなゴミの分別の方法です。その他に、日本人の時間厳守や社会の礼儀正しさなど、見習いたい事柄が数多くありました。

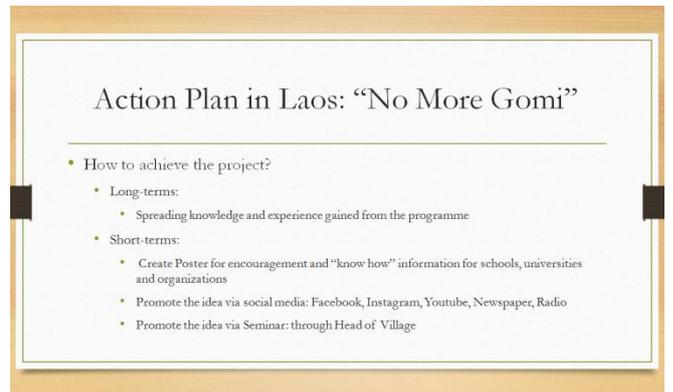
帰国後、日本のように清潔さを保つことや、ゴミの分別を行うことを伝えたいと思います。国の人々が環境を保全するよう、利用する資源の価値を知るよう奨励したいと思いました。これらの資

源は、意識をもって使わないと枯渇してしまう物なのです。ラオスの人たちにこれらの資源を節約するよう働きかけたいです。まず、小さいことから始めます。例えば、プラスチックの袋や分解が困難な物の利用を減らすこと。これらの物は日々増加しており、その処理が難しいからです。私は、今回の訪問から得たことを実行し、有益に活用したいと思います。

7. 参加者の報告会での報告内容（帰国後の発信計画）／帰国後の活動内容



報告会でのアクションプラン



アクションプラン



帰国後のアクション



帰国後のアクション